

野菜の展望

今月は越冬作型から春作型へと切替わり、春野菜や施設物の山菜類が気温上昇とともに本格的に出回る時期となります。しかし、冷え込みなどの気象条件に作況が左右されやすく、まだまだ入荷量・価格共に不安定な状態が続くと思われます。

根菜類の大根は徳島・千葉産を主体として九州各地から春大根の入荷があります。千葉産はトンネル栽培主体で、徳島産は春大根へと作型が移行します。人参は愛知・鹿児島産主体の入荷ですが、愛知・鹿児島産は中旬に切り上がる見込みで、以降は徳島産新人参の入荷となります。蓮根は石川産主体に茨城産の出回りとなります。季節商材の筍は多くの産地で裏年に当たり、徳島産は表年となります。徳島・鹿児島産中心の入荷で、中旬からは和歌山産も加わります。

果菜類の胡瓜は高知産主力に群馬・愛知産の入荷で、気温上昇とともに増量となる見込みです。南瓜はニュージーランド産の輸入品と沖縄産の入荷となります。茄子類では中茄子が高知主体に愛知、長茄子は熊本からの出回りがあります。トマト・ミニトマトについては愛知主体に熊本産の入荷となり、ピーマンは高知・鹿児島産主力に茨城産の入荷です。豆類ではインゲン・キヌサヤ・砂糖エンドウ・スナップ豌豆・そら豆等の入荷があり、主要産地は高知・鹿児島・愛知・静岡となります。前年は1月下旬の寒波の影響により、スナップ豌豆・そら豆は少なめの入荷となりましたが、今年度は順調な入荷を見込んでいます。

葉茎菜類の白菜は秋冬作型の茨城産が上旬で終了となり、その後は熊本産主力に九州各地の春作主体に兵庫産冷蔵白菜の入荷となります。キャベツは愛知産主体に九州各地より順調な入荷が見込まれます。葱は結束物が愛知と大分・長崎から、5kgバラについては埼玉・群馬産主力に平年並みの入荷となります。また下旬からは春葱も加わる予定です。ほうれん草は福岡・茨城・岐阜・群馬の各産地の入荷で、比較的順調な入荷と思われます。落は愛知産促成物の入荷で、今後は徐々に増量となります。レタスは兵庫産(淡路島)主体に茨城・長崎産の入荷で、各産地共に安定した入荷が見込まれます。ブロッコリーは高知・愛知産を主体に九州各地からの入荷となります。アスパラガスは長崎・佐賀・熊本産の春芽を主体にメキシコ産の入荷で、国内各産地が出揃って入荷量は増加傾向となります。季節商材である菜の花は徳島・高知産の入荷で、前進出荷の影響により前年に比べてやや少ない入荷見込みです。

菌茸類では椎茸が菌床物主体に露地原木物の出回りで、石川産主力に富山・岐阜・兵庫・徳島からの入荷があります。露地原木物は気温の上昇に伴い、潤沢な入荷が予想されます。なめこ・えのき・しめじ類・舞茸等も順調と思われます。

土物類の馬鈴薯は北海道・鹿児島産の入荷となり、北海道産は貯蔵量を見ながらの出荷ですが、前年の台風の影響から前年より少ない見込みです。玉葱は北海道主体に静岡・愛知産の新玉葱の入荷で、北海道産は貯蔵量を見ながらの計画出荷となりますが、残量は少なめで相場上昇の予想です。牛蒡は青森産主力の入荷で、貯蔵量は前年並みの見込みです。生姜は高知産主体に中国産の入荷となります。数量は前年並みの予想です。高知産新生姜は2kg箱で3月上旬にスタートの予定です。

3月は春を彩る季節商品を中心に、ひな祭りや春のお彼岸等各種イベントに併せた多彩な販売の企画立案の上、販売拡大にご協力をお願い致します。

《野菜第三部部长 杉本智則》

果実の展望

今月の果実は中晩柑を中心に莓や、数量は少ないものの施設物のメロン・西瓜・枇杷等が出回ってきます。

みかんは徳島産主体の入荷で終盤を迎えます。徳島産は裏年ということとこれまでの前進出荷により、入荷量は前年並みと予想されます。静岡産はJA三ヶ日よりLサイズ中心に5kg詰めの入荷が始まります。

中晩柑の主力品種である伊予柑は愛媛産が前年の2割減少という少ない出回りとなり、中心階級は2Lサイズで、上旬からは弥生紅の販売も始まります。

八朔は和歌山産主力の出回りで、M・L玉メインの玉流れとなります。上旬からは紅八朔やゆら八朔の入荷が開始する見込みです。

その他にも、清見・サンフルーツ・甘夏・アンコール・はるみ・せとか・はまさき・文旦等の多種類の柑橘の入荷を予定しています。

いちごは二番果から三番果への移行時期を迎えます。主力産地の愛知・九州産についても上旬より三番果のピークとなり、順調な入荷が予想されます。

りんごは青森産主力で、サンふじ・王林・ジョナゴールド等が36玉・40玉中心の玉流れでの入荷となります。

瓜類は静岡・高知・熊本産のアールスメロンを中心として、熊本産のアンデスやパパイヤ等の入荷が見込まれます。西瓜は熊本・沖縄・高知産の入荷予定です。いずれの産地も作付面積の減少と天候に左右されやすいことから、日々増減のある入荷が予想されます。

長崎産ハウス物枇杷の初出荷は寒さの影響で若干遅れるものと予想され、下旬からの入荷となりそうです。入荷量については前年よりもやや増量となる見込みです。

輸入果実のバナナはフィリピン・南米産の入荷です。フィリピン産は干ばつの影響により入荷量は大幅に減少し、かつ、需要期に入るため高値推移が予想されます。南米産については順調な入荷を予定しています。オレンジはカリフォルニア産ネーブル種が大玉・中玉主体に安定した出回りがあります。他にもカリフォルニア産ミネオラ・ダブルマーコット・イスラエル産オアも安定した入荷となります。グレープフルーツはフロリダ産及びイスラエル産の入荷で、フロリダ産は入荷減少と早期切り上がりが予想されますが、3月中は出荷最盛期に入り、40玉を中心にルビー種・ホワイト種共に入荷があります。レモンはカリフォルニア産セントラル地区から安定した入荷が見込まれます。フィリピン産パインは需要期を迎え、ゴールデン種は週1回、スイーティオ種は週2回の入荷となりそうです。その他果実では、メキシコ産ハネジューメロン、チリ産レッドグローブ、トンプソンシードレス等も順調な入荷となる見込みです。トロピカル関連ではマンゴー・アボカド・パパイヤなど豊富な品揃えで需要に応えます。以上、今月も何卒宜しくお願ひ申し上げます。

《常務取締役（野菜本部長） 大西 信哉》